

令和4年4月14日

# 議員定数等調査特別委員会

阿久根市議会



1 会議名 議員定数等調査特別委員会

2 日時 令和4年4月14日(木)

午前9時58分開会  
午前11時26分散会

3 場所 議場

4 出席委員

岩崎健二委員長、牟田学副委員長、竹之内和満委員、  
川上洋一委員、濱門明典委員、白石純一委員、  
濱田洋一委員、竹原信一委員、仮屋園一徳委員、  
中面幸人委員、木下孝行委員、濱之上大成委員、  
山田勝委員、濱崎國治委員

5 事務局職員 次長兼議事係長 上脇重樹、議事係主査 東岳也

6 会議に付した事件

本市議会に適切な議員定数、報酬及び議員活動に関する調査について

7 議事の経過概要 別紙のとおり



## 審査の経過概要

### ○本市議会に適切な議員定数、報酬及び議員活動に関する調査について

#### 岩崎健二委員長

時間前ですが全員おそろいですので、ただいまから議員定数等調査特別委員会を開会いたします。

本日は、前回配付した資料及び今後の審査方法について皆様から御意見をお伺いすることを予定しております。

それでは、前回配付した資料について委員の皆様から御意見をお伺いします。

御意見は、定数、報酬、政務活動費の項目ごとをお願いいたします。

まず、定数について、御意見をお願いいたします。

御意見ありませんか。

竹原委員、あなたはネクタイはどうされましたか。

〔竹原信一委員「ネクタイは忘れました」と呼ぶ〕

気をつけてください。

#### 竹原信一委員

定数の件なんですけれども、将来的なことを考えて。もう阿久根市の尻はなくなるぐらい小さくなっていくわけですよ、規模的に。そして、さらなる合併を考えたときに、定数的には出水市との合併を視野に入れて考えるべきだと思います。

#### 山田勝委員

今、竹原委員が出水と。どういうふうにそれを理解すればいいのか分からないんだけど、私は今後どこで合併するか分かりません。でも、それはそのときに結論を出せばいいわけであって、今は阿久根市としての議員定数を決めないといけない。私は、他の市と比較して考えたとき、阿久根市は多いのか少ないのかということとはなかなか難しい部分がありますけども、増やしても一つ、減るとしても1ぐらいでないと議論にならないと思うんです。だから定数を減らせばいいということじゃないですよ。減らすからいいということはないと思います。定数はやっぱりそれなりの数があって、だから議論も活発にして、それで議員活動をみんな一生懸命しないといけないですよ。そういうふうに私は思ってます。

#### 白石純一委員

合併云々というのは全くまだ、俎上に上ってないわけですからそれは考えなくてもいいのかなと思います。議員定数は4年前に1減になったわけなんですけれども、それ以降の人口がかなり早く減っていることを考えると、定員減も考えなきゃいけないのかなとは思いますが。ただ、その4年前も、例えば市民の中には、もう10ぐらいでいいんじゃないかとか、そんな1、2じゃなくて思い切って減らすべきだという意見もあるんですが、全国の同規模の市を見ても最低でもほぼ13が下限なんですね。つまり13人はその議会の委員会を含めた運営に最低限必要な数字ではないかということも他市の例からは言えるのではないかなと思います。

## 中面幸人委員

今回この委員会を設置したというのは、やはり、選挙前に定数であったり報酬であったりを議論しなければならないんじゃないかということだと思っんですよ。その意味で、市民の方の感情としては、阿久根の人口も減ってるから定数を減らすべきじゃないかというふうな考えであると思っんですよね。先ほど山田委員が言われたように、人口が減ったから定数をそれなりに減らすというのが、それがいいのか悪いのか。私的には、活発な議論をした中で阿久根の将来を考えるためにいろんな議員活動が大事だと思っので、その辺を考えたときに、ただ阿久根の人口が減っていくからそれなりに減らすっていう考え方もちょっとおかしいのではないかなと思っます。あとは市民が納得する定数でないといけないかなと思っので、その辺は議論すべきじゃないかなと思っます。

## 濱之上大成委員

私としては、もう定数は限界かなと。ただ問題は、先ほども出る出てますけれども、あまり削減することによって議会構成等も出てきます。そういう状況からいくと、もうこの程度が限界かなとも思っております。ただ危惧するのは、奇数であるということは非常に今後の議会運営についても、できれば偶数がいいのではないかなと思っ一人であります。そういう程度に考えればですね、奇数を偶数にする。増やすか減らすか。強いて言えば、流れを組めば一つぐらい減らしたらいかなもんかなという捉え方であります。

## 濱田洋一委員

先ほど各委員の方々からのお話がありましたけれども、この議員定数等調査特別委員会の設置ということで議員定数等ということでございますので、私は、定数、報酬、これらはやはりセットで検討すべきことじゃないかなと思っております。前回、平成31年4月の選挙におきまして、それまで定数16名だったのが1減の定数15名となりました。そういった中で今後においては、やはり働く世代、いわゆる30代40代の方々が阿久根市のために、地域のために、立候補を志しやすいですね、そういった取組というのが非常に重要じゃないかなと、そういった中でやはり定数と報酬はセットで考えるべきではないのかなと。

## 川上洋一委員

私は、あまり減らさないほうが、現状がいいんじゃないかなと思っます。というのは、やっぱりこの議会という組織の中でいろんな意見があるのは当然であって、これで定数減らしてしまえば偏りがちになってしまう。偏るといことは、どっちかにプラスになってどっちかにマイナスになるというのが、やっぱり世の中多々ありますから、私は現状でいいと思っますけど、今回は。

## 竹之内和満委員

類似市の資料を読んでですね。垂水市が2015年に2万人切ったところで定数を14にしております。前回阿久根市は、4年前にいろんな時間的余裕もなかったかもしれませんが、1減だけにとどまっております。今、1万9300人ぐらいですかね、阿久根の人口は。恐らく1万9000人を切る可能性がありますので、やっぱり定数減を考えていかなければいけないかなと思っております。あと定数の偶数、奇数があったんですが、鹿児島県内で奇数というのは阿久根市と鹿児島市だけしかありません。あとは全部偶数。議長以外で採決できるように偶数になっております。やはり偶数という数字も必要かなと思っます。

## 竹原信一委員

いただいた資料の中に大学教授の言葉があります。その中には、お手盛りということへの批判から審議会が設置されるようになっている。しかし、一度も議会を傍聴したこともない人、あるいは議員と議論したこともない人が選任されるというのは滑稽だと、このように書かれているんですね。まさに私たちの仕事、議会の仕事というのは物事を判断すること、つまり質であります。これについて私たち自身がどうこうするというのは結構難しいところがあったりしますけれども、この定数、報酬などについても、例えば今日お越しの方々、議会を傍聴されたの方々、されるようなそういった方々の意見を中心に結論を出していくべきじゃないかと私は思うんですよ。いかがでしょう。

## 濱門明典委員

議員定数ということで、4年前1減したわけですけど、さらにまた人口はこの資料には1万9800となっておりますけれどもさらに1万9200台に入っている状況で、また4年間すると年に400人から人口が減る勘定になっておりますので、ここは議員定数を減らすという方向で私はしたほうが後々にまたいいんじゃないかなと思います。そのときそのとき考えればいいんですけれども、非常に人口減少とこの議員定数との関連なんですけど、もうちょっと議員の中身の精査もせないかんですけども、非常に今の現状というのがどういふふうにあるかって言ったときに、やっぱりそれは委員がいろんなありますけれども、そのほうもなかなか1つ人数は少ない状況もありますけれども、それもまたやり方によってはできると思いますので、議員定数をやっぱり1つか2つは減らしても私はいいと思います。

## 山田勝委員

もうあと何回もない、長い間議員をしてる私が、皆さん方に御理解をいただきたいのはね、人口が減るから議員の数を減らそうじゃなくて、どうしたら人口が増やせるようになるか皆さん方も頑張らないといけない、何か。ここに来て議論をするだけ、賛成するだけじゃないんですよ。皆さん方も何かしら頑張って、そして少しでも人口が増えるように、産業が興るように、まちが活性化するように頑張らないと。けちをつけることだけじゃなくて頑張ることも大事なことです。だから私はそういう意味で数を減らすということだけが市民の負託に、市民に納得してもらって、市民に議員の数を納得していただくということにはできないですよ。それよりもどうしたら人口が増えるか、どうしたら産業が興るのか、どうしたらふるさと納税が増えるかって、一生懸命自分たちも考えて活動しないといかん。私は全然活動が見えないから言うんですよ。

## 濱崎國治委員

この議員定数の問題については、今、削減、あるいは現状維持、あるいは増やしたほうがいいという意見もいろいろあるかと思います。議員定数の基本的な考え方としては来期の議会でいかに適正な結論を出せるのは何人だろうかという、そういう基本的な立場になって議論すべきだというふうに思います。だから議員定数については、每期ごとに議論して行って、来年の4月以降の、今回は来年の4月から4年間についての議員定数はいかにあるべきか、そして議論が適正な結論が出せるという定数が適正な定数ではないかなというふうに思っています。

## 仮屋園一徳委員

私は、前回ぎりぎり1減ということで15、現在定数15なんですけど、私個人としては

今の定数で今回はいいのではないかと思います。ただ、先ほどから出ていますように1増ということはまず考えられないことで、1減ということになればそれぞれ何で1減しなければならないのかということを経酬等も含めて議論すべきではないかなと、大いに議論すべきではないかなと思います。

#### **牟田学委員**

私は先ほども意見が出ましたけれども、奇数より偶数。それに関してはそのとおりがいいと思います。それで、1削減ですかね、14名にして。ただ、それに伴って、それに合った報酬を、資料も見ていますけど阿久根市が1番低いような状態であります。やはり今からの世代、若い世代が立候補して、世代交代じゃありませんけれども、若い人たちが議会に出れるような報酬をセットとして、これから考えていくべきではないのかなと思います。

#### **木下孝行委員**

私は、定数に関しては現状維持でいったほうがいいという考えを持っております。理由は、先ほど4番委員の意見にもありましたように、議会構成の中で非常に数が減るということは非常に構成上問題があると認識しております。そしてなおかつ、地域の住民の声として、地域から議員がいないということで、区長さんも含めていろんな問題を相談できる議員がいないといった意見も、過去からずっと議員と語る会とかそういったところで、そういった話をされる市民の方も大勢おりますので、できるだけ数に関してはもうこれ以上減らさないのが妥当じゃないかなと考えております。ただ4年前の定数の問題のときにも報酬の問題が取上げられ、上げるような話があったにもかかわらず報酬は全くできなかったというのがあります。今、9番委員の意見、そして5番委員の意見の中にも、7番委員の意見の中にもありましたように、もし減らすとするのであれば、報酬は必ず上げると、そういうふうにしていただいて若い世代の方たちが出やすい環境をつくってやらないと。非常に今、阿久根市議会は高齢化議会であります。こういう中でやっぱり若い人の意見を議会に持ってくるには、報酬は必ず上げるべきだという願いをして終わります。

#### **岩崎健二委員長**

今、定数については、全員の皆さんからそれぞれの、初めての意見というか、ありましたので、これから報酬についてもセットで話をしたいと思います。

報酬についてをメインに御意見ありませんか。

#### **竹原信一委員**

やっぱりこれもお手盛りは避けられないと思います。自分たちだけでどうするかというのはですね。ほかの市民の皆様、議会に積極的な関心を寄せる方々に中心的な役割を担っていただく方法でないと、私たちがやってはいけないんじゃないかなという気がしておりますよ。

#### **岩崎健二委員長**

議員報酬につきましては、審議会に諮って、審議会から答申をされて、それが条例として上がってくると思いますので、ここで、議会の中で報酬を幾らにするというふうな決め方はなかなか難しいと思います。ただ、報酬等審議会に報酬についての議論をしてくれという申請を行って、報酬等審議会においてその議論をされるべきものだという事になると思いますので御理解いただきたいと思います。

## 白石純一委員

数名の委員から御発言あったように、私も定数だけではなく報酬も議会改革という意味で総合的に判断すべきかと思っております。したがって、報酬については既に意見が出ているように若い世代、現役世代の方も出やすいように、仮に当選したとしても4年後の身分は保障されないわけですから、少しでもそういう方が安心して議員活動に打ち込めるような報酬。今の水準ではなかなか厳しいのかなと思っております。したがって、例えば議員定数を1減するに当たっては報酬を上げるとそういうことで、議員報酬の総額としては今よりもかなり落ちるのではないかとは思っておりますので、そういった総合的な判断も必要かと思っております。

## 牟田学委員

先ほども言いましたように定数と報酬とセットで考えていかなければならないと思っておりますけれども、それとやはり、常任委員長、特別委員長、いろいろあるわけですが、やはり委員長は委員長で一生懸命やっています。だからそこ辺りも報酬の中で考えていかないと、ただ委員長はやるだけであって、そこ辺りをやはり考慮をしていかなければいけないと私は思います。

## 岩崎健二委員長

今、牟田委員の御発言は、常任委員長は常任委員長としての報酬があるけど特別委員長についてはないので、特別委員長についても議論すべきだということですかね。

[牟田学委員「はい」と呼ぶ]

## 中面幸人委員

先ほど委員長のほうで特別職の議員等の報酬については審議会等で結論を出してということでございますけれども、委員会としてもある程度、例えばいろんな類似市の情報を見ながら結論を出すと思うんですよ。その中でやっぱり議会として、議員としての意見も必要じゃないかと、審議会に上げる必要があるのではないかという思うのでそれぞれ委員の意見も大事かなと思っております。

## 岩崎健二委員長

先ほど私が申し上げたのは、ここで結論を出すっていうんじゃなくて、報酬等審議会で審議されて、それが条例として上がってくると。今、中面委員のおっしゃるように議会としての要望といいますか、希望といいますか、議会の議論の中ではこれぐらいでしたよというのは、報酬等審議会に資料として提出はできるんだろうと思っておりますが、ここで結論を出せないっていうことを私は申し上げたわけです。よろしいですかね。

## 山田勝委員

報酬審議会は市長の諮問機関だからね、あなた方はこの議論をちゃんと市長に言って、そして報酬審議会を開いてもらわないかんわけですから。だから報酬審議会を開いてもらったときに議会の意見は付してやればいい話。それは私もそう思いますよ、あまりにも給料安ければよかという品じゃないですよ。ある程度魅力がないと成り手はいないです。私は市町村の議員なんていうのは常勤でなくてもいいんですよ。かねてはほかの仕事をしてながら、自分の考え方、意見を言えばいい話で、それは常勤にする必要ないです。専門職じゃないですよ。だから報酬は上げていいと思うし、併せて委員長の報酬も、常任委員長と同じように特別委員長もしていいですよ。そうしないと、特に予算委員長なんていうのはものすごく書かないといけないんだから。

## 川上洋一委員

報酬に関しては下げなくてもいいと思います。逆に上げて、それこそ牟田委員が言うように若い人たちができるように、年金をもらわなくても子供たちを養っていける、子育て世代が議員報酬で生活ができるようにしていかなければいけないと思います。それと、市民受けはいいですけど報酬を下げるという人たちは。今までには、報酬を下げるとか一般質問で言われた方もいました。そういう人たちは裁判所に供託でもしましたか、全然していない。ただ、多数決の世界だから自分は言うだけ、パフォーマンスをするだけのことで、あとはもらった分はそのまま持って帰りましょうというのが私は見て取れます、今まで見てると。だからこの報酬に関してこの場で下げるべきだという人は、だったら4年先からでもいいから供託してくださいよというぐらいの気持ちで、私は供託しますよというぐらいの気持ちで言ってほしいですね。

## 濱之上大成委員

長年私も議員生活でやってきて、もうそろそろいいかなという意見を述べさせていただきます。私は39歳で議員になりました。針のむしろでありました、決心するのに。それはなぜかという報酬が低過ぎるんです。そうすると若い人たちがやりたくてもですね、やはりそんな腰掛程度の議員生活というのはありません。器用な人はできるでしょう。しかし議員という世界に入った以上は、しっかりと市民の声を動かさないといけないわけです。ですから最低でも、もうそろそろいかがなんでしょうか、私から言えば個人的な発想ですが、最低4～5万はもう値上げすべきだと思っております。それと同時に、先ほどの定数に戻りますけど、少なければいいという問題じゃありません。ですから、私は先ほど来言うのは、奇数に対しての危惧があると同時に、定数を考えるのであれば報酬も考えないかんとということなんです、今報酬のことをおっしゃってますので、個人的に言えば最低4～5万は上げるべきであろうと思って意見を述べました。

## 中面幸人委員

私はくれるだけの報酬で結構です。

## 濱田洋一委員

すいません。ここでほかの市町村、いちき串木野市の議長が書かれた昨年の11月に新聞に掲載されておりましたことをちょっと紹介したいと思います。

議員の平均年齢が67.6歳まで上昇している現状であったと。そういった中で市民からは定数削減や脱サラして立候補しやすくするための議員報酬引上げなど、様々な意見が寄せられていたと。そういった中で、やはり議会改革をいろいろ検討しなければならないということで述べておられますけれども、やはり先ほど各委員からありましたように、人口が減ったからそれと一緒に比例して議員の定数を減らすとか、そういう観点ではなくて、例えば近隣の長島町を見てみますと、人口は阿久根市の半分でありながら定数は14ということでもありますので、その各自治体に応じた、現状を踏まえた中で、やはり報酬というのも先ほど言いましたけれども、子育て世代、若い世代の方々が立候補できる体制づくりというのが将来の阿久根市のために必ず必要なことだと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

## 竹之内和満委員

報酬に関しては先ほどから出ておりますが、定数減とセットにして報酬を考えるということをしなればいけないと思ひます。最終的には特別職報酬等審議会ですかね、そ

ここで決めるとは思いますけれども、やはり減らす分にはやっぱり増額というのを考えていかなと思います。

#### **中面幸人委員**

それぞれ委員の意見が出ておりますからその意見についても言いますが、若い人が幾ら報酬が少なくても阿久根のために頑張るよと、議員になって阿久根を変えてやるよという、そういう意志の若い人たちは議員報酬が少なくても出るとは思いますよ。

〔発言する者あり〕

出ない人は出なくていいですよ。

〔発言する者あり〕

私はそう思いますよ。

#### **岩崎健二委員長**

一通り報酬についてまで行きましたので、続きまして、政務活動費について皆さんの御意見を伺いたと思います。

意見ありませんか。

#### **中面幸人委員**

自分で勉強したい人は自分のお金で行きなさい。

#### **山田勝委員**

私は自分のお金でという気持ちでやっていますよ。しかし、政務活動費というのもしっかり認められて各議会でやっている中で、やはり必要な人はちゃんと申請をするような仕組みをつくってほしいと思いますよ。そうしないと。自分のお金でしないとねって、それはそうであるのよ。でも、そこまでみてやることも必要だと思いますよ。税金を使うからって、なんだってというようなことで、けちってはいけませんよ。以前、私たちは政務活動費について全国的に有名になりました。不正をする人がいたわけですから。でもちゃんとしてる人はちゃんとしていたわけですから。ですからそれはそれで、なるかならんかは別にして、議題に挙げていいと思いますよ。

#### **白石純一委員**

政務活動費については、各自治体で、ある市町とない市町があります。阿久根市の場合はないわけですが、今、他の委員からお話があったように、政務活動費が出ないところでは、議員がその報酬の中から活動費を絞り出さなきゃいけないわけです。そうしたところ私もかなり自分では政務活動に関わる費用を報酬から削り出してるつもりなんですけれども、なかなかそれだと先ほど申したように、特に現役世代、若い方々というのは厳しいものがあると思います。政務活動費について阿久根市では問題があることもございました。したがって、報酬と政務活動費をやはりこれもセットで総額として他自治体と比べて当然政務活動費がない阿久根市の場合は非常にその総額としては低いわけですから、その辺りも十分に勘案すべきかと思っています。

#### **木下孝行委員**

私も今の4番委員とほぼ同じ意見であります。先ほど最初で定数のところで言いましたように、私は、定数は現状維持がいいと思っておりますが、もし下げるとすれば報酬と政務活動費はセットにしていただきたいと思っています。やはり若い人が議会に出てきたときに、報酬からまた活動費を捻出するのは非常に厳しい状況だと思います。そういったことを考えればセットにしていただきたい。その代わり以前問題がありました阿久根

市ですから、しっかりと適正な手続でもらえるようにしっかりとそこをきちっとして、もらえるようにしていただきたいと思います。

#### 岩崎健二委員長

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

今、各委員の御意見をいただきました。各委員の御意見を踏まえての討議などにつきましては、今後、ほかの調査を行った後に行いたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

#### 白石純一委員

定数と報酬と政務活動費という三つの観点でそれぞれ話しました。ただし、やはりそれぞれ関連、総合的に見なきゃいけないだろうという意見も複数の委員からございました。つまり、これは議会改革、議会を今後、来期以降の議会をどうしていくかということの総合的な判断にすべきかと思います。その中で一番出てる意見は、やっぱり若い方、現役世代が議員活動ができるように、しやすいようにということが一番の目的だろうと思います。そうした時に、若い方、現役世代というのは現職、お仕事をお持ちの方もおられます。また主婦の方は家庭、今、女性に限らず夫の主夫もおられるかと思いますが、家庭のことをしながら議員活動ということも、そうたやすいものではございません。そうしたときに、例えば夜間議会だとか週末議会、こうした議会を取り入れている自治体もございますので、そういったことも今後すぐにというわけではなくですね、例えば来期の議員の皆様を検討していただくと、そういうことをこの議会で、我々の議会で申し送りすることによって、報酬だとか定数、そしてそうしたより多くの方々が議員として活動できるような方策も提案しながら総合的に次の議会選挙を迎えるべきではないかというふうに考えております。

#### 岩崎健二委員長

本委員会におきましては、今、白石委員の話がありました議会改革等につきましては付議されておきませんので、どこまで踏み込めるか、委員長としましてはどこまで踏み込んでいいものか苦慮するところではありますが、報酬、議員定数、政務活動費等々に付随して今の意見等も踏まえた上で皆さんにお示しできればと思っておりますのでよろしくお願い致します。

本日のところは、皆様の御意見を伺った上で、後日またこのことにつきましては、皆さんの意見を整理した上で、お配りして、また討論、議論を行っていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

次に、今後の調査方法について御意見をお伺いいたします。昨年12月10日の委員会において御意見を伺った際には、最近、同様の検討を行った近隣の議会を調査する。区長会の役員の方等の意見を聞く。市民のアンケートを行うという意見が出たところですが、改めて御意見を伺います。

調査方法について皆さんから御意見ありませんか。

#### 中面幸人委員

やはり、市民の代表というか、区長さんからの意見を聞く必要があると思います。

#### 岩崎健二委員長

それは前回の委員会においてそういう意見がありましたので、今申し上げましたとお

り同様の検討を行った近隣の議会を調査するというのが一つ。それから区長会等の皆さんの意見を聞くというのが一つ。それから、市民アンケートを行ったらどうかという意見が一つ、この三つが出ております。

それ以外に何か調査方法として、こうした方がいいかという意見御意見ありませんか。

#### 竹原信一委員

今日お越しの、傍聴においでの方の皆さん方の御意見も例えばお書きいただいて、この議論を聞いて、そういったこともぜひ取り入れるべきじゃないかなと思います。

#### 濱崎國治委員

今日お越しの方、特定の方の意見というのはですね、あまり私は重点的に。

#### 岩崎健二委員長

濱崎委員申し訳ない、ちょっと待ってください。

今、皆さんからそれで意見を聞くんですが、それぞれ調査方法について聞くんですが、その調査方法として決定するにつきましたは、一人一つのものについて、次の協議で行いたいと思いますので、よろしいですかね。

今、竹原委員が言われたことについて、濱崎委員がそれはどうかという御意見がちょっとあったんですが、次の協議の中で竹原委員が今おっしゃった本日傍聴されて云々のことについて調査しますかどうしますかっていうふうに振りますので、その時点で、今、濱崎委員がおっしゃった話をしただけませんか。よろしいでしょうか。

〔濱崎國治委員「わかりました」と呼ぶ〕

今、お伺いしているのは、それぞれ皆さんの御意見を聞くのみですので、聞いた上で、次の段階で、その意見について調査するかしないかというのは、また御意見を伺いますので。

#### 濱崎國治委員

市民アンケートについてはもう実施する方向で、今おっしゃってるんですか。

#### 岩崎健二委員長

違いますよ、これからですよ。だから、それについても、今、それぞれ皆さんの御意見を伺って協議した上で、どうするかというのを決定していきます。ただ、前回こういう意見がありましたという、今は意見があったという段階です。よろしいですか。

〔濱崎國治委員「はい」と呼ぶ〕

#### 白石純一委員

近隣市町を調査するということです。近隣市町というと鹿児島県内というふうに考えがちですけれども、水俣市、えびの市、阿久根市とさほど距離的にもまちの規模的にも変わらない市町村、県は違いますけれども、そうした市では、例えば阿久根の報酬が26万に対して水俣、えびのは30万以上というような大きな差異もございます。したがって近隣というときにですね、県内に限る必要はないのではないかなと。生活水準が違うわけでもありませんので、そうしたことで近隣という定義をできるだけ広く、あるいは全国的な傾向というのも必要かもしれませんのでその辺りを、意見をちょっと付かせていただきたい。

そしてもう一つ、先ほど委員長が区長会長の意見とおっしゃいましたね、区長の意見ではなく区長会長の意見ということでしたかね。

## 岩崎健二委員長

区長会の役員の方の意見というふうに伺っています。だから区長会長という個人じゃなくて、区長会の役員の方の御意見を聞いたらどうでしょうかという、今、そこまでのレベルですよ。

## 白石純一委員

分かりました。それでありましたら、役員も少数ですので区長全員のアンケートということも十分考えられるのではないかなと思います。

あともう一点、市民のアンケートといった場合、議会あるいは政治に関心のある方だけではなく、広く一般にアンケートというのはすべきかと思いますので、無作為抽出アンケートが本来の調査の信頼性が高まるのではないかなと思います。

## 岩崎健二委員長

今、先ほどこちよつと言いましたけど、今は皆さんの意見を、こういう調査したらどうでしょうかという意見を聞く段階ですので、次に今、白石委員がちょつと言われたように、市民アンケートを行うについてはこうこうだ、どうしましょうかというふうに議論していただきますので。

〔白石純一委員「はいわかりました」と呼ぶ〕

よろしいですか。今、前回12月10日の委員会において御意見を伺ったときには同様の検討を行った近隣の議会を調査するということでしたが、今、白石委員が近隣だけじゃなくて全国区に、全国と言いますか、大きく広げて調査したらどうかという意見が新しく出ましたので、そういう意見を言っていたきたいということです。

区長会の役員じゃなくて、区長会全員のアンケートを取ったらどうかという意見も今出ました。

それから市民アンケートについては抽出したのでどうかという意見も出ましたので、それを一つ一つを、今後全部やれるわけではないと思います、予算も必要ですので。その中で皆さんと協議した上で調査項目を絞っていきたいと思いますのでよろしく願います。

ほかに、調査方法について御意見ありませんか。

## 山田勝委員

議員報酬については報酬審議会でするわけですから、だからこれは議員が考える必要ないですよ、報酬審議会で諮問をして上がってくるわけですから。問題は議員定数についてのみですよ、議員が責任を持ってやれるのは。だから議員定数については、自分たちで早く決めないといけないな。来年なのだから選挙は。だらだらして、できることなら6月議会、遅くても9月議会までにはしないといけないわけですから。だからその辺はよく分かってしないと、私たちが決められるのは議員定数だけです。

## 岩崎健二委員長

委員長としましては、今、山田委員がおっしゃったとおり条例改正の手續も必要ですので、できたら6月議会、どんなに遅くても9月議会までには結論を出して条例の制定まで持っていきたいと考えております。

それにつきましては今、山田委員がおっしゃるとおり議会で、条例で決められるのは、定数と政務活動費が条例の制定の必要がありますので、これについては議会で提案ということですので、ここまで含めて今言いましたとおり、できるだけ6月、遅くとも9

月には制定できるようにやっていたきたい。

それから、今言われましたように、報酬については報酬審議会がありますので、議会の皆さんの御意見を付議した上で市長に対して報酬等審議会の開催をお願いする。それで報酬等審議会がどのような結論出されてくるのかを見て、それに対して執行部が条例改正案を提案されるでしょうから議論していただきたいというふうに思っております。よろしいですかね。

#### 濱崎國治委員

議員報酬について、特別職報酬等審議会が答申するというのを考慮するというので、議会基本条例はなっています。そしてまた次項では、議員が提案する場合はこうこうだということで二通りできるようになってるんですね。ですから、別に報酬審議会にこだわる必要はないし、ただ、報酬審議会の答申と議員提案が余りにも乖離している場合には問題が出てくるということがあります。そのところですね、別に報酬審議会の答申は考慮するという事になっていきますので、議員は議員としてこれぐらいが適当であるというのは提案できるということです。ただ、さっき言ったように、第三者である報酬審議会はこれだけとしていて、議員自らはこうだとして、それに開きがあるとなれば、ちょっと市民感情的には好ましくないのではないかなという気がします。

#### 竹原信一委員

まさにそのとおりですね。私たちは先ほどからの議論の中で、自分たちでは報酬を決められないっていうのを全く間違った考えだということを再確認しておきたいと思います。

#### 岩崎健二委員長

いや、報酬も条例ですので、乱暴な言い方をすると、議会で条例を提案してやればできないことでは法令上はないとは思いますが。だから先ほど言われましたように、自分たちでお手盛りしたと言われるようなことがないようにするためには、自分たちの希望を報酬等審議会に諮っていただいて、そこで第三者的な人たちの御意見を尊重した上で、決めていけるのが一番いいんじゃないかなと思います。だから、お手盛りと言われないうちには、やっぱり報酬等審議会の御意見を参考にするというのは。

#### 山田勝委員

それは議会で決めるわけですからね、議員が決められるんですよ。ところが報酬審議会で粛々と上がってきたものをですね、そこで審議して決めれば、市民はどう思っているかなんて考えなくてよかよ。

〔発言する者あり〕

#### 岩崎健二委員長

よろしいですか。

調査方法についてほかに御意見ありませんか。

#### 白石純一委員

その期限ですけど、6月、遅くとも9月という委員長のお話がありましたけれども、それもこの委員会です、もう6月までに決めようやというようなことを確認、目標として確認したほうがいいんじゃないかと思うんですけどいかがでしょうか。

#### 岩崎健二委員長

それでは今、白石委員から、山田委員の話もありました、私も発言しましたが、当委員会の結論を出す時期等について、目標をみんなで共有したほうがいいんじゃないかという

意見がありますので、それについて御意見を伺いたいと思いますが、先ほど言いましたとおり、委員長としましては、できたら6月、遅くとも9月議会までには結論、条例改正までやりたいという意見を持って思っておりますがいかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

いいですか。皆さんもそのようなつもりで、できたら6月議会、ちょっと間に合わないかもしれませんが、遅くとも9月議会には条例の改正を提案できるものに持っていくつもりで御意見等をお願いをいたします。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、ただいま出されました調査方法について調査項目ごとに調査すべきかどうかなど皆さんの御意見を伺います。

初めに、12月10日出ました最近同様の検討を行った近隣の議会、近隣とは県内なのか、九州内なのかというのも含めて、皆さんの御意見を伺います。

#### **白石純一委員**

鹿児島県は、かなり相対的に低い、ほとんどの自治体が低い県で、他県に比べると先ほども申したように同規模のえびの市や水俣市に比べると4万円ほどの差があるというのはかなりの差であります。一方で、物価水準はそれほど、日本国内で変わることはなかなかないと思いますので、近隣といった場合、最低でも九州圏内を考え、また全国的な傾向もそれに加味すべきではないかと思えます。

#### **中面幸人委員**

今日のこの委員会で、事務局のほうでたくさん資料をもう提供してもらってるので、もう別に先進地というか調査しなくても私はいいと思えます。

#### **濱崎國治委員**

報酬については、先ほどからありますとおり特別職報酬等審議会の答申があるわけですが、それをあるわけというわけじゃないんですけど、そこに答申をしてもらおうという方法をとらないかと思えますが、そこで、これまでの議論を聞いてみますと鹿児島県内の財政規模の同じような、あるいは人口規模の同じようなところを参考にしながら報酬は決められているような気がします。例えば熊本県とか、宮崎県においては、ほかの報酬も実は高いんですね、監査委員の報酬にしても高いんですが、これは鹿児島県内がさっき言ったように、県内の各市の状況を判断をして、人口規模、財政規模等を判断をして答申するっていうそういうのがありますので、あえて熊本県、あるいは宮崎県とかですね、あるいは九州とか、そういうところについてはもう調査はあんまりしてもどうなのかなという気がいたします。

#### **竹原信一委員**

いただいた資料の中に、先ほどの大学教授の文章の中にですね、全国町村議長会が町村議会モデルを提言をする予定であるという文書が書かれているんですよ。そういったものの中に、参考になるものがありそうなふうに思うんですけども、そういったものを入れるべきじゃないかなと。

#### **岩崎健二委員長**

竹原委員、これを見ればわかるということですか。

## 竹原信一委員

それを参考にして議論しましょうよということですね。このモデルを提言する予定であるって書いてありますので、そう出されたものを見ましょうよって、恐らくもう出てるんじゃないですか。

## 岩崎健二委員長

今、議論をしていただいているのは、調査方法について前回から出た調査について、近隣の議会を調査する、あるいは九州管内を調査する、全国を調査するという意見がありましたので、この調査について調査する必要があるのかなのか。

## 竹原信一委員

やってはいかんとは言わないですけども、したければすればいいんじゃないですか。

## 岩崎健二委員長

この議会の先進地と言いますかね、議会の調査する必要があるのかなのか、それを議論してるんですからよろしくお願いします。

## 白石純一委員

私が勘違いしたのかもしれませんが、調査という場合、出かけて行ってということは必ずしも必要ないと思っています。この資料でも調査はできるわけですので、その資料で検討する対象が近隣鹿児島県内の近場の市町村だけの必要はないんじゃないかと、検討の対象が、県外、あるいは九州、全国の傾向ということも資料として調査の対象になりうるのではないかという趣旨です。

## 岩崎健二委員長

今、必ずしも出かけて行って調査するとはどこにも、私も一言も言ってないし、書いてないわけですから。調査するということですので、今、白石委員の意見がありましたとおり、この今の文書をもって、この書式をもってもう少し詳しく調査をするのか、あるいは先進地の意見を聞くために、出かけて行って調査する必要があるのかということですね、意見を言っていただきたいと思います。

## 濱田洋一委員

先ほど4番委員からお話があったとおりでよろしいかと思うんですが、この資料の報酬の中に九州の市のうち人口1.8万人から2.2万人の市ということで、阿久根市を含めて5つの市が記載されております。こういった同じような人口規模の自治体でもありますので、例えばこの議員報酬等をこの金額に決定された経緯といいますか、そういうのをもしお聞きできたらですよ、聞いていただいてこういうことでこの報酬なんだというような、いわゆる参考資料といいますか、なぜそういう高いのかなとか、低いのかなというのがありますので、そういった参考資料もやはり必要でないのかなといったことで調査という、中身の具体的に調査をして、またここで議論をした中で阿久根市議会としてどうあるべきかというのを詰めていければいいのかなと思います。

## 岩崎健二委員長

今ありました他市の議会を調査するという項目についてですね、この資料以上に調査する必要があるのかなのか、この資料をもって調査終了ということでもいいのかということについてはいかがですか。

## 竹之内和満委員

この資料は単なる数字の羅列ですのでよく分からないです。やっぱりちゃんとした、ど

ういう経緯でそういうふうになったのかというのをぜひ知りたいと思います。その調査方法なんですが、そういう資料の調査方法もあるんですが、近隣ならば出かけて行って調査するのもいいかなと思います。

#### **山田勝委員**

鹿児島県は報酬は安い。特に阿久根市はですね、いろいろあって安いですよ。でもね、これをどっかに行ったからといって、濱之上議員が言うごと5万でも6万でもは上げられんたっで。似たり寄ったりでなければ。だから、いいところで収まるようにすればいいと私は思いますよ。

#### **川上洋一委員**

多分、身の丈に合った感じで作ってあるんでしょうけど、私が思うに。やっぱり今後のことを考えると、少しはやっぱり若者に未来を託す以上は、もう少し上げるべきだと思うんですが、もうちょっとプラス思考で調査をしてほしいと思います。

#### **濱之上大成委員**

どうもやり取りが前後してるんですが、まずはもう委員長に一任いたしますので、ある程度の意見が出てますから、そういうのは事務局から別のところの事務局に調査の意向をお願いして資料もらうとか、一応委員長に一任しますので、その方向でまずやってみてはいかがですか。その程度でいいんじゃないかな話。

〔発言する者あり〕

#### **岩崎健二委員長**

それでは、皆さんの種々意見が出ましたので、私のほうでこれを一旦整理しまして、次回の会議でこのようにしたいと思うがということで、委員長試案を出したいと思います。それでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では次に、区長会の役員の方の御意見を伺うというのがあります。

これについて、皆さんの意見を伺います。

#### **竹原信一委員**

区長さんの皆様というのは、そもそもこういう議会のこと、定数だの報酬などについて、判断をお願いされてなっている方々ではないわけですよ。そして、市民の意見の代表者でもない、どうもその区長の皆さんの意見をもって市民の意見とするような考え方は不適切だと私は思います。

#### **岩崎健二委員長**

竹原委員のお考えは、区長会の皆さんの意見を聞く必要はないということですね。それでいいですか。

〔竹原信一委員「はい」と呼ぶ〕

#### **白石純一委員**

我々市民から選ばれてるわけですから、市民の意見をアンケート等でお伺いする。できれば無作為抽出でアンケートをお願いする。

#### **岩崎健二委員長**

白石委員、先に進まないでください。今、区長会の皆さんに。

#### **白石純一委員**

その関連ですから。そちらと比べた場合に区長会の役員の意見ということは、果たして

同じような重きが置けるのかというのは疑問です。したがって、まず区長会の役員ではなく区長に意見を伺う。ただしそれは、市民の方々の一部であると。ただし区長という役職を持っていらっしゃるという市民の一つの意見として聞くべきではないかと思います。

#### 中面幸人委員

私は、市民アンケートを取れば、もう区長との話し合いはいいと思います。

#### 岩崎健二委員長

それでは、今、区長会の皆さんの意見を聞くということについては否定的な意見が多いようですが区長会の皆さんからの意見を聞く必要ありませんか。

#### 濱崎國治委員

市民の声を聞くというのは非常に大事なことだと思います。市民の意見を聞くのに、誰を抽出して聞くのかといえば、やはり、少しでも行政の一端を担っている区長がベターではないだろうかというのを考えています。というのは、区長は市からの行政事務連絡員という職を与えられておりまして、行政とは頻繁に接触する機会もあるということを考えてときにですね、やはり区長の意見、あるいは区長は、70何名いるんでしょうか、それをするか、あるいは各校区の代表の方の役員ですね、そういう人の意見は聞くべきだろうなと思います。

#### 岩崎健二委員長

聞かなくてもいいという意見と聞くべきだという意見がありますが、決を取っていいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、区長会の役員の皆さんの意見を聞く必要があると思われる方は挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

挙手多数ですので、区長会の役員の方の意見は聞くことに決しました。聞く方法につきましては事務局と相談しますので、委員長に一任願いたいと思います。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

次に、市民アンケートについてお伺いします。

市民アンケートを行うか行わなくていいか意見を伺います。

#### 白石純一委員

区長の意見を聞くことは全く無駄ではない、もちろん、それはあることだと思うんですけども、各区長はもちろん、全ての年代の区民のことを見てはいらっしゃいますが、新たに区長になったばかりの方とか、なかなかその区長によっても違うところがあるかと思っています。先ほど来、現役世代、若い人の政治参加、議員活動を皆さん進めるべきだという中で、どうしても区長さん方というのは、多分、平均年齢60代後半から70代ではないのかなと思いますので、そういった意味で全世代いろんな方の意見を聞くという点では、やはり市民アンケートということは必要ではないかなと思います。

#### 中面幸人委員

私は、区長の意見はもう聞かんでいいと言ったので、市民アンケートに賛成です。

#### 牟田学委員

私はですね、今、1～2年は議会と語る会は行われていませんけれども、その前までは

議員と語る会を行っていました。その中でやはり市民の方の出席が少ない。それから、今、学校規模適正化の審議もやっておりますけど、教育委員会が行った説明会にもやはり出席が少ない。そういうところですね、私は市民アンケートは必要ないと思います。

#### **岩崎健二委員長**

市民アンケートをやるにはそれなりの費用も必要ですので、補正予算等が必要になってくるかと思えます。やれる時期等が限られてくるかと思えますので、そこらも考慮の上で意見をお願いします。

#### **木下孝行委員**

私は基本的には、この早くて6月、遅くとも9月というその時期設定をしたのであれば、市民アンケートは必要ないと思います。

その代わり、区長さんの皆さんに住民の人たちの意見を聞いた上での判断をしてくださいということをお願いをして、その意見をもらって、あとは我々が決断することでありまして、各個人がもう意思も半分は固まっている人もいるだろうと思えます。あくまで参考にするだけであろうと思えますので、余り複雑な手続をする必要はもうないのではないかと思います。

#### **濱崎國治委員**

私も市民アンケートは必要ではないと思えます。先ほどの委員の方にも話がありましたとおり、6月、あるいは9月というのを考えればですね、市民アンケートはかなり期間もかかるというふうに考えられます。また、市民アンケートといたら、広くアンケートをとるわけですので、議会あるいは行政への関心を持ちの方がそんなにたくさんいらっしゃらないのじゃないかなというのも考えれば、あえて取る必要があるのかなというの思えます。

#### **白石純一委員**

市民アンケートというのは、市民全員の意見を聞くということでも当然ありませんし、もちろん、全員に配ったとしても皆さんがそれに答えていただける、されるわけがありません。政治、議会に関心のある方々だけだと、どうしてもそちらの方だけの意見になってしまいます。ふだん傍聴に来られない方もたくさんいらっしゃるでしょう。そうした方々も税金を納めていらっしゃる市民であるわけですから、私はそういった方を対象にした無作為の抽出したアンケート、具体的には例えば、次の市報を配られるときに、そうした無作為に配ることで回収を行うと。これはしたがって、1万世帯ありますけれども、そのうちの例えば1,000でも十分に信頼度の高いアンケートになるということがこれは統計学上も言えると思えますので、そうした形で行うことを考えれば決して不可能ではないのではないかなと思えます。

#### **濱崎國治委員**

市民アンケートを取るというのは本当に必要なことかもしれませんが、私が危惧するのは、アンケートというのは質問、設問によって非常に違ってくるんですね。そういうのを考えれば、あえて私は市民アンケートは取る必要ないんじゃないかなというふうに思えます。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

#### **竹之内和満委員**

自分はやっていいかなと思えます。それも全ての世代、無作為抽出で、行政に興味ある

人もない人もどういう意見を持ってるかというのは、それを参考にするわけですので、そのとおりするわけではありませんので、もし時期的に許されるものならやってもらいたいと思います。

#### **岩崎健二委員長**

今、市民アンケートについては、やっていい、やらなくてもいい、どっちかというやらなくていいというような意見が多いようです。

どうでしょうか。区長会の役員の方の意見を聞くというのがあります、調査方法として。それから今、市民アンケートをと二つ方法がありますが、先ほど来出ています区長会の役員の方だけじゃなくて、77名の区長の皆さんの意見を聞くという意味で、市民アンケートという抽出的なものの考え方というのも含めて、区長会の全員の区長の皆さんにアンケートを出して、区長会の意見あるいは市民アンケートとダブらせてやったらいかがですかね。

#### **濱之上大成委員**

先ほど来、委員長に一任と申し上げたんですがね。この区長にしても、漠然と区長と語るという問題よりも、まずある程度テーマを持って、先にテーマを持ってアンケート等も含めた意見の各区長に配るという方法もあるわけですから、そこで区長なりに今さっき、11番委員もおっしゃいましたが、これは私個人的なものじゃなくて、やっぱり区にも聞いてどうだろうかとか、そういうやりとりの設問を委員長に一任しますので、そういったものを出すという方法もあるわけですから、いかがでしょうかそれで。

#### **岩崎健二委員長**

市民の皆さんに御意見を聞くというのは先ほど来出ていますとお参考として意見を聞くというのは非常に大事なことだと思いますが、どのレベルで意見を聞くかということの議論だと思います。今、議論してるのは、市民の無作為による抽出でアンケートをやるのか、あるいは区長77名の皆さんのアンケートをとるのか、あるいは区長会の役員、各校区に役員いらっしゃると思いますので、役員会レベルの皆さんだけの意見を聞くのかというようなことだと思います。そこで、この二つのことをできるだけ合わせる形で区長会の77名の区長の皆さんの御意見を伺ったらどうか、アンケート取ったらいかがでしょうかと。

#### **山田勝委員**

これで結構だからね、僕は。僕のあとは提案ですよ。4月に区長会があるから区長会に行って、そこで時間をいただいて御意見を聞いたらどうですか、そしたら全部済まよ。

#### **岩崎健二委員長**

区長会総会が後日開催される、今までコロナの関係であったりなかったりだと思いますが、されるかどうかわかりませんが、もしそこでアンケートを取ることは可能かと思えますので、その方法につきましては委員長に一任願えませんかでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

#### **白石純一委員**

区長会総会でお伺いすると区長の個人の意見になるわけですよ。新たに4月になったばかりの区長さんもおられるでしょう、あと先ほども申したように区長さんは比較的年齢の高い方ばかりです。そうして、現役世代、若い方を政治にということを経三皆さんもおっしゃってるわけですから、そういった意味で区長個人の御意見を聞くというよりも、やはり区長、私は市民アンケートをするべきだと思っておりますが、もしそれをやらない

というのであれば、区長に各区の皆さんの意見の総意としてどういうふうに思われるかをアンケートとして伺いするということが必要なのではないかなと思います。

#### 竹原信一委員

市民の皆様の御意見ということで、特に議会に対して意識の高い方、傍聴にでも行こうかというぐらいの方々の意見をないがしろにはいけないと思うんですよ。傍聴に来られる方は何か書いて御意見とかいうシステムはあるんですかね。そういったことも積極的に活用していくべきだと思うんです。こちらからあてがったものにどう答えますかではなくて、来て、何か行こう聞きたいという気持ちになったときに書いて、そして私たちはそれを積極的に取り入れるという気持ちは必要なんじゃないですか。それによってまた傍聴者も増えるし議会に対する関心も高まっていくと思います。傍聴に来られる方々の御意見も積極的に活用すべきだと思います。

#### 岩崎健二委員長

先ほど、傍聴においでいただいた皆さんのアンケートをとるという御意見につきまして、必要でないという意見のほうが多かったものですから。

〔竹原信一委員「そういう対応とってないでしょ。傍聴に来られることについては採決とってないですよ」と呼ぶ〕

それでは、今、区長会と市民アンケートにつきましては、合わせて77名の区長の全員のアンケートをとるということによろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

#### 白石純一委員

市民アンケートが物理的に不可能な場合は、それでいいと思うんですが、まず市民アンケート等は不可能なのかあるいは、皆さん議員の方がやる必要ないということなのかを一応確認をしていただきたい。

#### 岩崎健二委員長

分かりました。それでは市民アンケートを行ったほうがいいと思われる方の挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

挙手少数であります。よって市民アンケートは行わないことに決しました。

市民アンケートは行わないことと決しましたが、先ほど来出ていますように、少しでも多くの皆さんの御意見をお伺いするために、区長会の77名全員のアンケートを取りたいと思いますがいかがですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

#### 白石純一委員

はい、それで結構です。それで皆さんが決めたことですから結構ですけれども、区長の個人の意見ではなくて、区の意見としてアンケートに答えていただけるようお願いいたします。

#### 岩崎健二委員長

今の御意見もごもっともかと思いますが、区長さんによって区民の皆さんの御意見を集約してできるかどうかという非常に難しい問題があるかと思いますが、区長さんにそこらをお任せするしかないかと思いますが。

## 白石純一委員

区によってはコロナの状況もありますけれども、今、区の総会も開かれる時期ではないかと思しますので、その場で区長からそういった意見を聞くということも、またその区内でアンケート等を区長さんが各自でやるというような方法もあるかと思しますので、いろいろなやり方があるということは、前もってお願いしてもいいのではないかと思います。

## 岩崎健二委員長

はい、各区長さんにどこまでお願いできるかというのは、非常に難しいところがありますが、できるだけ皆さんの御意見を取り入れる形で、お願いできることはお願いしたいと思えます。それ以上のことは、こちらから小さなことまではなかなかお願いが難しいかと思えますのでよろしくお願いいたします。

次に、竹原委員より意見がありました、傍聴者の皆さんのアンケートをとるということにつきまして賛成の皆さんの挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

挙手少数であります。よって傍聴者の人たちの御意見を伺う、アンケートを取ることにつきましてはしないことと決しました。

ただいま調査方法について協議していただきました。行うこととなった調査につきましては準備をいたしますので、調査を行う順序、開催の日時、方法等については委員長に御一任願いたいと思えますがこれに御異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長に御一任願いたいと思えますが、それぞれ皆さんの要望等がありましたら、文書をもって委員長のほうに提出をお願いします。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

## 白石純一委員

先ほど来、これはもう議会改革の一部なんだということを申しました。現在、市議会議員選挙は4月、そして市長選挙が12月に行われ、4年前は12月でした。そこで4か月ほどのギャップがあるわけですが、皆さん御存じのとおり今行われている出水市長選挙、市議会議員選挙、長島町長、町議会選挙が同日の投票です。多くの自治体ではそうなっているかと思えます。阿久根の場合は、様々なイレギュラーが事案があって、ずれたままになっているわけですが、そこで一つこの委員会で検討を進めてもいいのではないかなと思うのが、他市議会で行われた事例のある自主解散ということで、市長選と市議選を同日に行うということが複数の市議会で行われております。そうしたことを、それを報じた新聞資料もありますので、後で参考に皆さんにお配りしたいと思えますが、その点も今後この委員会で検討できるのかどうかですね、皆さんにお諮りいただければと思えます。

## 岩崎健二委員長

本委員会の付議事件が決まっておりますので、付議されなかった案件については、当委員会で審議することは不可能かと思えます。

## 白石純一委員

それを提案しているので、それは事務局や委員長が御判断されるのではなく、皆さん、議員の皆さん、委員の皆さんに御判断いただければ。

## 岩崎健二委員長

ちょっと待ってください。この付議案件につきましては、本会議におきまして調査特別委員会にこれこれの付議事件を付議するというので、本会議において議決しておりますので、本会議において議決されていない付議事件につきましては調査することは委員会ではできないと思います。

## 白石純一委員

等となっておりますので、議員定数等に関わることではないかなと私は思料しますが、いかがでしょうか。

## 岩崎健二委員長

委員長としましては、議員定数等調査特別委員会の等とは、報酬と政務調査費のことでありまして、議会の解散とかあるいは公職選挙法に関するようなものにつきましては、付議されているとは思っておりません。

## 白石純一委員

委員長、それは本会議でそういうふうになったんでしたっけ。

## 岩崎健二委員長

本会議で当調査特別委員会に付議事件として皆さんにお諮りをして議決しておりますので。

〔白石純一委員「委員長、その内容もですか」と呼ぶ〕

あなたもいたわけですからね、その議会の席上に、いたわけですから。

〔白石純一委員「ですから新たに動議として出させていただいているわけですか」と呼ぶ〕

〔発言する者あり〕

調査特別委員会の委員長としましては、受けかねますので。

〔白石純一委員「ですから動議として出しておりますので、委員の皆さんで御判断いただければと思いますが」と呼ぶ〕

決議第2号に、名称は議員定数等調査特別委員会、以下委員会という。2目的、本市議会に適切な議員定数、報酬及び議員活動に関する調査を行うとあります。これを付議事件として議決しております。

## 白石純一委員

そこに新たに動議として加えて。

## 岩崎健二委員長

新たにやるのには本会議が必要です。

〔白石純一委員「分かりました」と呼ぶ〕

それぐらいあなたも分かってくださいよ。

〔白石純一委員「分からないので、提案、動議をしたままで」と呼ぶ〕

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

以上で、本日の議員定数等調査特別委員会を散会いたします。

(散会 午前11時26分)